

附置義務駐車場の台数算定表(1)

(駐車場整備地区又は商業地域若しくは近隣商業地域の場合)

1 建築物の計画内容 (小数点以下第3位切捨て)

用途地域			地域		
部分 の 用 途 床 面 積	特 定	百貨店その他の店舗	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・①
		事務所	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・②
		倉庫又は工場	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・③
		その他の特定用途	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・④
		非特定用途	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・⑤
		共同住宅等	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・⑥
		共用部分	m ²	・・・⑦	
合 計			m ²	・・・⑧ (駐車場の部分を除く。)	
建築物の延べ面積 (⑧-⑥)			m ²	・・・⑨ (駐車場及び共同住宅等⑥の部分を除く。)	

※ 共同住宅等とは、共同住宅、長屋、寄宿舍及び下宿のことをいいます。

2 駐車場条例対象の判断

$$\boxed{\begin{array}{l} \text{特定用途} \\ \text{①+②+③+④} \end{array}} \text{ m}^2 + \left(\boxed{\begin{array}{l} \text{非特定用途} \\ \text{⑤} \end{array}} \text{ m}^2 \right) \div 2 = \boxed{\text{m}^2 \dots \text{⑩}}$$

※ 計算結果から⑩が1,000平方メートルを超える場合は、条例の対象となります。

3 大規模建築物の逡減措置 (小数点以下第3位は切捨て) □対象・□対象外

事務所の部分の床面積②、倉庫又は工場の部分の床面積③が10,000m²を超える場合

事務所の部分 の床面積	0～ 10,000m ² の部分	10,000 m ² × 1.0=	10,000 m ²
	10,000超～ 50,000m ² の部分	m ² × 0.7=	m ²
	50,000超～100,000m ² の部分	m ² × 0.6=	m ²
	100,000超の部分	m ² × 0.5=	m ²
	合 計	(② m ²)	②' m ²
倉庫又は工場 の部分の床 面積	0～ 10,000m ² の部分	10,000 m ² × 1.0=	10,000 m ²
	10,000超～ 50,000m ² の部分	m ² × 0.7=	m ²
	50,000超～100,000m ² の部分	m ² × 0.6=	m ²
	100,000超の部分	m ² × 0.5=	m ²
	合 計	(③ m ²)	③' m ²

※ 大規模建築物の逡減措置の対象となった場合は、次ページ以降②'を②に、③'を③に読み替えます。

4 乗用車駐車場の附置義務台数の算定

(1) 百貨店その他の店舗の部分

$$\left(\text{①} \right) \div 200 \text{ [m}^2\text{/台]} \\ \text{※「横浜駅周辺地区」内は} 300 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑪}$$

(2) 事務所の部分

$$\left(\text{②} \right) \div 250 \text{ [m}^2\text{/台]} \\ \text{※「横浜駅周辺地区」内は} 300 \text{ [m}^2\text{/台]} \\ \text{※「みなとみらい21地区」内は} 400 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑫}$$

(3) 倉庫又は工場、その他の特定用途の部分

$$\left(\text{③} + \text{④ (横浜駅周辺地区内では「飲食店」は除く)} \right) \div 250 \text{ [m}^2\text{/台]} \\ \left\{ + \left(\text{④ (横浜駅周辺地区内の「飲食店」)} \right) \div 300 \text{ [m}^2\text{/台]} \right\} \\ \text{※「横浜駅周辺地区」内は「飲食店」は} 300 \text{ [m}^2\text{/台]} \\ = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑬}$$

(4) 非特定用途の部分

$$\text{⑤} \div 550 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑭}$$

(5) 小計

$$\text{⑪} + \text{⑫} + \text{⑬} + \text{⑭} = \dots \text{⑮}$$

(6) 小規模建築物の緩和措置 有・無

建築物の延べ面積（駐車場及び共同住宅等の部分を除く。）⑨が、6,000㎡未満の場合

$$\text{緩和係数} = 1 - \left(\frac{1,000 \text{ m}^2 \times (6,000 \text{ m}^2 - \text{建築物の延べ面積⑨})}{6,000 \text{ m}^2 \times \text{⑩} - 1,000 \text{ m}^2 \times \text{建築物の延べ面積⑨}} \right) \\ = 1 - \frac{1,000 \text{ m}^2 \times (6,000 \text{ m}^2 - \text{⑨})}{6,000 \text{ m}^2 \times \text{⑩} - 1,000 \text{ m}^2 \times \text{⑨}} \\ = 1 - \frac{\text{ }}{\text{ }} = 1 - \text{ } = \text{ } \dots \text{⑯} \\ \text{(小数点以下第4位切捨て)}$$

(7) 乗用車駐車場の附置義務台数

小規模建築物の緩和措置 有

$$\text{⑮} \times \text{⑯} = \text{ } \text{小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{ } \text{台} \dots \text{⑰}$$

小規模建築物の緩和措置 無

$$\text{⑮} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{ } \text{台} \dots \text{⑰}$$

5 荷さばき駐車場の附置義務台数の算定 対象・対象外

特定用途に供する部分の床面積 (①+②+③+④) が3,000㎡を超える場合

- (1) 百貨店その他の店舗の部分

$$\boxed{\text{①}} \div 3,000 \text{ [㎡/台]} = \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{⑱}$$

- (2) 事務所の部分

$$\boxed{\text{②}} \div 8,000 \text{ [㎡/台]} = \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{⑲}$$

- (3) 倉庫又は工場の部分

$$\boxed{\text{③}} \div 3,500 \text{ [㎡/台]} = \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{⑳}$$

- (4) その他の特定用途の部分

$$\boxed{\text{④}} \div 6,500 \text{ [㎡/台]} = \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{㉑}$$

- (5) 小計

$$\boxed{\text{⑱}} + \boxed{\text{⑲}} + \boxed{\text{⑳}} + \boxed{\text{㉑}} = \boxed{\phantom{\text{ }}} \dots \text{㉒}$$

- (6) 小規模建築物の緩和措置 有・無

建築物の延べ面積（駐車場及び共同住宅等の部分を除く。）⑨が、6,000㎡未満の場合

$$\text{緩和係数} = 1 - \left(\frac{6,000 \text{ ㎡} - \text{建築物の延べ面積⑨}}{\text{建築物の延べ面積⑨}} \right)$$

$$= 1 - \frac{6,000 \text{ ㎡} - \boxed{\text{⑨}}}{\boxed{\text{⑨}}}$$

$$= 1 - \frac{\boxed{\phantom{\text{ }}}}{\boxed{\phantom{\text{ }}}}$$

$$= 1 - \boxed{\phantom{\text{ }}} = \boxed{\phantom{\text{ }}} \dots \text{㉓}$$

(小数以下点第4位切捨て)

- (7) 荷さばき駐車場の附置義務台数（10台を超える場合は10台を上限とします。）

小規模建築物の緩和措置 有

$$\boxed{\text{㉒}} \times \boxed{\text{㉓}} = \boxed{\phantom{\text{ }}} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \boxed{\phantom{\text{ }}} \text{ 台} \dots \text{㉔}$$

小規模建築物の緩和措置 無

$$\boxed{\text{㉒}} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \boxed{\phantom{\text{ }}} \text{ 台} \dots \text{㉕}$$

上限10台

6 自動二輪車駐車場の附置義務台数の算定 対象・対象外

特定用途に供する部分の床面積 (①+②+③+④) が1,000㎡を超える場合

- (1) 百貨店その他の店舗、事務所の部分

$$\left(\boxed{\text{①}} \text{ ㎡} + \boxed{\text{②}} \text{ ㎡} \right) \div 3,000 \text{ [㎡/台]}$$

$$= \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{㉖}$$

(2) 倉庫又は工場、その他の特定用途の部分

$$\left(\text{③} \text{ m}^2 + \text{④} \text{ m}^2 \right) \div 10,000 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{②6}$$

(3) 小計

$$\text{②5} + \text{②6} = \dots \text{②7}$$

(4) 小規模建築物の緩和措置 有・無

建築物の延べ面積（駐車場及び共同住宅等の部分を除く。）⑨が、6,000㎡未満の場合

$$\begin{aligned} \text{緩和係数} &= 1 - \left(\frac{1,000 \text{ m}^2 \times (6,000 \text{ m}^2 - \text{建築物の延べ面積⑨})}{5,000 \text{ m}^2 \times \text{建築物の延べ面積⑨}} \right) \\ &= 1 - \frac{1,000 \text{ m}^2 \times (6,000 \text{ m}^2 - \text{⑨})}{5,000 \text{ m}^2 \times \text{⑨}} \\ &= 1 - \frac{\text{⑨}}{\text{⑨}} = 1 - \text{⑨} = \text{⑨} \dots \text{②8} \end{aligned}$$

(小数点以下第4位切捨て)

(5) 自動二輪車駐車場の附置義務台数

小規模建築物の緩和措置 有

$$\text{②7} \times \text{②8} = \text{⑨} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{⑨} \text{ 台} \dots \text{②9}$$

小規模建築物の緩和措置 無

$$\text{②7} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{⑨} \text{ 台} \dots \text{②9}$$

7 駐車場の附置義務台数

(1) 乗用車駐車場

$$\text{①7又は①7} \text{ 台} - \text{②4又は②4} \text{ 台} = \text{⑨} \text{ 台}$$

(2) 荷さばき駐車場

$$\text{②4又は②4} \text{ 台}$$

(3) 自動二輪車駐車場

$$\text{②9又は②9} \text{ 台}$$

【参考】 共同住宅等と複合している場合の算定

共同住宅等の用途に供する建築物で、住居の用に供する部分の床面積の合計が1,000平方メートルを超える場合は、横浜市建築基準条例に基づき、当該建築物の住戸又は住室の数に応じた駐車場の設置が必要となります。

$$\text{⑨} \text{ 戸} \times \frac{\text{⑨} \text{ 地域}}{10} = \text{⑨} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{⑨} \text{ 台}$$

附置義務駐車場の台数算定表(2)

(周辺地区又は自動車ふくそう地区の場合)

1 建築物の計画内容 (小数点以下第3位切捨て)

用途地域		地域			
部分 の 用 途 床 面 積	特 定	百貨店その他の店舗	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・①
		事務所	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・②
		倉庫又は工場	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・③
		その他の特定用途	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・④
		非特定用途	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・⑤
		共同住宅等	m ²	共用部分⑦を面積案分した数値との合計	m ² ・・・⑥
		共用部分	m ²	・・・⑦	
	合計	m ²	・・・⑧ (駐車場の部分を除く。)		
建築物の延べ面積 (⑧-⑥)		m ²	・・・⑨ (駐車場及び共同住宅等⑥の部分を除く。)		

※ 共同住宅等とは、共同住宅、長屋、寄宿舍及び下宿のことをいいます。

2 駐車場条例対象の判断

特定用途 (①+②+③+④) =	m ² ・・・⑩
---------------------	---------------------

※ 計算結果から⑩が2,000平方メートルを超える場合は、条例の対象となります。

3 大規模建築物の逡減措置 (小数点以下第3位は切捨て) 対象・対象外

事務所の部分の床面積②が10,000m²を超える場合

事務所の部分 の床面積	0～ 10,000m ² の部分	10,000 m ² × 1.0 =	10,000 m ²
	10,000超～ 50,000m ² の部分	m ² × 0.7 =	m ²
	50,000超～100,000m ² の部分	m ² × 0.6 =	m ²
	100,000超の部分	m ² × 0.5 =	m ²
	合 計	(② m ²)	②' m ²

※ 大規模建築物の逡減措置の対象となった場合は、次ページ以降②'を②に読み替えます。

4 乗用車駐車場の附置義務台数の算定

(1) 百貨店その他の店舗の部分

$$\left(\text{①} \right) \div 200 \text{ [m}^2\text{/台]}$$

$$= \text{小数点以下第4位を四捨五入} \text{ } \dots \text{⑪}$$

(2) 事務所の部分

$$\left(\text{②} \right) \div \underline{250} \text{ [m}^2\text{/台]}$$

$$= \text{小数点以下第4位を四捨五入} \text{ } \dots \text{⑫}$$

(2) 倉庫又は工場の部分

$$\text{③} \div 300 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑬}$$

(3) その他の特定用途の部分

$$\text{④} \div 250 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑭}$$

(4) 小計

$$\text{⑪} + \text{⑫} + \text{⑬} + \text{⑭} = \dots \text{⑮}$$

(5) 小規模建築物の緩和措置 有・無

建築物の延べ面積（駐車場及び共同住宅等の部分を除く。）⑨が、6,000㎡未満の場合

$$\text{緩和係数} = 1 - \left(\frac{6,000 \text{ m}^2 - \text{建築物の延べ面積⑨}}{2 \times \text{建築物の延べ面積⑨}} \right)$$

$$= 1 - \frac{6,000 \text{ m}^2 - \text{⑨}}{2 \times \text{⑨}}$$

$$= 1 - \frac{\text{ }}{\text{ }} = 1 - \text{ } = \text{ } \dots \text{⑯}$$

(小数点以下第4位切捨て)

(6) 乗用車駐車場の附置義務台数

小規模建築物の緩和措置 有

$$\text{⑮} \times \text{⑯} = \text{ } \text{小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{ } \text{台} \dots \text{⑰}$$

小規模建築物の緩和措置 無

$$\text{⑮} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \text{ } \text{台} \dots \text{⑰}$$

5 荷さばき駐車場の附置義務台数の算定 対象・対象外

特定用途に供する部分の床面積 (①+②+③+④) が3,000㎡を超える場合

(1) 百貨店その他の店舗の部分

$$\text{①} \div 3,000 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑱}$$

(2) 事務所の部分

$$\text{②} \div 8,000 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑲}$$

(3) 倉庫又は工場の部分

$$\text{③} \div 3,500 \text{ [m}^2\text{/台]} = \text{小数点以下第4位を四捨五入} \dots \text{⑳}$$

(4) その他の特定用途の部分

$$\boxed{\text{④}} \div 6,500 \text{ [m}^2\text{/台]} = \boxed{\text{小数点以下第4位を四捨五入}} \dots \text{⑳}$$

(5) 小計

$$\boxed{\text{⑱}} + \boxed{\text{⑲}} + \boxed{\text{㉔}} + \boxed{\text{㉕}} = \boxed{} \dots \text{㉑}$$

(6) 小規模建築物の緩和措置 有・無

建築物の延べ面積（駐車場及び共同住宅等の部分を除く。）⑨が、6,000㎡未満の場合

$$\text{緩和係数} = 1 - \left(\frac{6,000 \text{ m}^2 - \text{建築物の延べ面積⑨}}{\text{建築物の延べ面積⑨}} \right)$$

$$= 1 - \frac{6,000 \text{ m}^2 - \boxed{\text{⑨}}}{\boxed{\text{⑨}}}$$

$$= 1 - \frac{\boxed{}}{\boxed{}} = 1 - \boxed{} = \boxed{} \dots \text{㉒}$$

(小数点以下第4位切捨て)

(7) 荷さばき駐車場の附置義務台数（10台を超える場合は10台を上限とします。）

小規模建築物の緩和措置 有

$$\boxed{\text{㉒}} \times \boxed{\text{㉓}} = \boxed{} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \boxed{} \text{ 台} \dots \text{㉓}$$

小規模建築物の緩和措置 無

$$\boxed{\text{㉒}} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \boxed{} \text{ 台} \dots \text{㉓}$$

上限10台

6 駐車場の附置義務台数

(1) 乗用車駐車場

$$\boxed{\text{⑰又は⑰}} \text{ 台} - \boxed{\text{㉔又は㉔}} \text{ 台} = \boxed{} \text{ 台}$$

(2) 荷さばき駐車場

$$\boxed{\text{㉔又は㉔}} \text{ 台}$$

【参考】 共同住宅等と複合している場合の算定

共同住宅等の用途に供する建築物で、住居の用に供する部分の床面積の合計が1,000平方メートルを超える場合は、横浜市建築基準条例に基づき、当該建築物の住戸又は住室の数に応じた駐車場の設置が必要となります。

$$\boxed{} \text{ 戸} \times \frac{\boxed{} \text{ 地域}}{10} = \boxed{} \text{ 小数点以下切上げ} \Rightarrow \boxed{} \text{ 台}$$